

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【仲町小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には良好な結果となり、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。一方、個人差もあることから、ICTを活用した学びや家庭との連携・協力を進めるなど個別に必要な支援を実施していく必要がある。小5理科の「生命」を柱とする領域については、課題であることを教職員で共有し、知識・技能の定着を図ることができるように引き続き学校全体で取り組んでいく。
思考・判断・表現	全体的には良好な結果となり、思考・判断・表現の一定の定着を図ることができた。一方、個人差もあることから、個別に必要な支援を実施していく必要がある。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に向けた授業改善を引き続き学校課題研修に位置付け、ICTを効果的に活用した授業を全ての教職員が実践できるように取り組んでいく。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】理科の知識・技能領域に関する問題の正答率が半数前後になっている。 【指導上の課題】習得した知識・技能を繰り返し活用する授業がやや少ない。	⇒ 理科では、単元を見通した教材研究を行い、習得した知識・技能を繰り返し活用できる場面を設定するとともに、動画資料を積極的に取り入れ、知識・技能の定着を図る【R6年度さいたま市学習状況調査理科の知識・技能領域において、市平均値との差を昨年度よりも向上させる】。
思考・判断・表現	【学習上の課題】国語や算数の勉強に対して好意的ではない割合が一定数ある。 【指導上の課題】国語や算数が好きになるような授業ができていない。	⇒ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を学校課題研修に位置付け、子ども主体の学びとなるように授業改善を進める【R6年度さいたま市学習状況調査「国語、算数の勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が80%以上】。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	R6年度さいたま市学習状況調査理科の知識・技能領域における市平均値との差は、異集団比較で小5は4.1ポイント低下し、小6は4.3ポイント向上した。同集団比較においては、小5から小6で0.2ポイント向上した。単元を見通した教材研究、習得した知識・技能を繰り返し活用できる場面の設定、動画資料を積極的に取り入れる等の方策により、知識・技能の定着を図ることができた。
思考・判断・表現	B	R6年度さいたま市学習状況調査「国語の勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は小3～小6平均で約72%だった。同「算数の勉強は好きですか」の肯定的な回答の割合は、小3～小6平均で約73%だった。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を学校課題研修に位置付け、子ども主体の学びとなるように授業改善を進めたが、目標の80%には至らなかった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語、算数ともに良好な結果となった。 国語では、「競技」という漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題に、やや課題がみられた。
思考・判断・表現	国語、算数ともに良好な結果となった。 算数では、速さを求める問題やグラフを読み取る問題で、正解を導くための理由や条件を言葉で記述することにやや課題がみられた。 「国語の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は約71%、「算数の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は約82%だった。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	小5理科では「空気を温めた時の体積の変化」、「回路という名称」、「ハチマの雄花雌花の部位の名称とその役割」等に課題がみられた。小6理科では「乾電池の直列つなぎ」、「電流の向きと検流計の読み方」、「時間が経過したあとの水溶液の様子」、「発芽の条件」、「植物のからだのつくり」等にやや課題がみられた。
思考・判断・表現	小3算数「除法の場面商と余りを適切に判断する」、小4算数「複数の数量から必要な数量を選び立式する」、小5理科「受粉についての問題を解決する実験方法を考える」、「水の蒸発を日常現象に適用して考える」、小6理科「水の温まり方についての実験方法を考える、結果からより妥当な考えをつくりだす」、「土地の侵食についての結果を見通す、結果からより妥当な考えをつくりだす」等にやや課題がみられた。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	各教科で単元を見通した教材研究を行い、習得した知識・技能を繰り返し活用できる場面を設定している。また、動画資料も積極的に取り入れることができ始めており、引き続き行っていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	「個別最適な学び」と「協働的な学び」を学校課題研修に位置付け、子ども主体の学びとなる授業づくりの研究を進めている。また、この研究目的に沿った一人一授業の公開を進めている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)